

平成28年度

入学試験国語問題

注

- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 問題用紙は持ち出さないこと。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

マメを土に埋めず、暗黒の箱の中で育てれば、モヤシができる。では、モヤシをつくるマメを土の中に植えた場合、土の中の暗黒でマメはどのように育つのだろうか。どんな芽が、でてくるだろうか。

地中に埋まって発芽した種子は、土の中の暗黒で光を受けていないはずである。それゆえ、^①それらの芽生えが地表面に芽を出す前に土中から掘り出すと、暗黒で育ったモヤシとよく似ている。茎の色は白く、上部は釣り針のように曲がって、その先に小さな閉じた黄白色の葉がついている。

ところが、土中から掘り出された芽生えの茎は、太くてたくましい。「茎はヒヨロヒヨロに長く伸びる」という、暗黒の箱の中で示される特徴は消えている。考えてみれば、土の中を地表面に向かって伸びてくる茎が、モヤシのようにヒヨロヒヨロで弱いものだったら、土を押しつけて地表面に出てくることができない。a、土中の暗黒では、太くたくましくなければならぬだろう。

モヤシのマメは、土の中の暗黒で発芽すれば、太くたくましい茎になるのだ。箱の中の暗黒と、土に埋もれている場合の暗黒を、植物は^Aシキ別しているのだ。どのようにして、植物たちは、シキ別するのだろうか。

^B「この原因は、土に含まれる栄養である」と考える人は多い。「肥料が不足すれば、光が当たっていても、植物はヒヨロヒヨロとヒン弱な成長ししかない。でも、肥料を与えれば、りっぱに成長する」ことが知られているからである。

「モヤシを真っ暗な箱の中で育てるときには、水しか与えない。水しか与えなければ、ヒヨロヒヨロの細いモヤシになる。しかし、モヤシのマメだって、栄養を与えたら太くたくましい茎になるだろう。だから、土に栄養があれば、太い茎のモヤシが育つのだ」と言われれば、正しいような気がする。

b、この場合は、^②そうではない。伸びてくる茎が、土に^A触れる^Aという刺激を感じる。この刺激が、茎を肥大させるのだ。植物が^A触れる^Aという刺激に反応するというのは意外だろうが、「植物は、さわられると感じる」のだ。

植物は、「土と触れる」「土と接触する」という刺激を感じる。ほんとうに「植物が接触の刺激を感じるのか」と信じられない人は、植物をいつも撫でまわしてみたらよい。背の低いむっくりした植物になるだろう。

c、大きなキクの花を一 I だけ咲かせるには、茎を太くせねばならない。そんなとき、茎を短く太くするための薬品がある。しかし、薬品を使わずにそうしたいときには、いつも地上部を撫でまわしながら育てればよい。

「植物は、さわられると感じる」ことは、実験として、確かめることもできる。発芽したインゲンマメなどの芽生えの茎を、毎日、親指と人差し指で挟んで上下にこする。 d、よくこすった茎ほど肥大して、背丈の低い植物になる。

「植物は、さわられると感じる」性質がわかる背ケイには、多くの研究者の経験があった。研究者が植物の成長を日を追って記録する場合、多くの植物を植えて、その中から、測定用に特定の植物を決める。そして、それを多くの植物の代表として、Dカン察する。その際、手で触れて、茎の長さや葉の数などを測定する。

ところが、日が経つにつれて、測定の対象に決めた植物の成長だけが抑制されるのだ。B一つの調査でも、まわりの植物よりも測定の対象になった植物の成長だけが抑制されてしまう。「なぜだろう」と、長い間、多くの研究者が不思議に思っていた。

その謎は、この性質の発見で解かれた。「植物は、さわられると感じ、背丈の低い植物になる」ことを考えると、この現象はよく理解できる。

植物は、土の中にいるという「場所」を知る術を持っている。触れる」という刺激を感じるのだ。植物たちの感覚は、私たちの想像を越えている。「植物って、私たちが思っている以上にすごい能力を持っているんだ」と思ってしまう。

そう思っ、モヤシをあらためてよく眺めてみると、モヤシの奇妙な姿の意味が見えてくる。茎はヒヨロヒヨロで長く伸び、先端は釣り針のように曲がり、その先に黄白色の小さな葉が閉じたままついている。でも、暗黒の中の芽生えの生き方を考えると、一見奇妙に見える特徴が、暗黒の中で、生きようとするたくましい姿なのだ。

茎がよく伸びるのは、地表面になるべく早く出るためだろう。地表面に出れば、光が当たる。光が当たると、光合成をして、自

分で栄養をつくり出すことができる。先端が地上へ出られなかったら、その芽生えは、やがて枯れてしまう。

種子中に貯蔵されている養分は、限られている。だから、それをできるだけ効率的に茎を伸ばすのに使って、早く光の当たる地上に出ようとしている。そのために、暗闇の中を懸命に茎を細く伸ばすのだ。茎が長く伸びるのは、^⑤生きようとする植物の必死な姿である。

茎の先端は、釣り針のように曲がっている。これは、茎の部分を丸く曲げて力を強くし、その曲がった部分で土を押しつけて上に伸びるためである。私たちが、満員の電車に、背中を丸めて後ろ向きに人を押しつけて、乗り込む姿に似ているかも知れない。

もし、釣り針のように曲がっていないかったら、芽が直接土を押しつけながら、上へ伸びなければならない。そうすれば、芽は傷つく。釣り針のように曲がっているのは、芽生えが土を押しつけて伸びる際に、二枚の子葉のつけ根にある芽を守るためでもある。芽は、地上部に出て、葉をつくり、植物らしい形^Eタイプをつくるために、もっとも大切な部分である。

長い茎の先端には、黄白色の小さな葉がたたみ込まれている。植物が葉を広げるのは、⁴光合成に必要な光を、できるだけ多く浴びるためである。光のない土の中では、葉を広げる必要もなく、広げようとしても、土が邪魔になって広げられない。光が当たれば、葉っぱは広がるようになっていく。

II

モヤシの姿は、一見、奇妙である。しかし、奇妙に見えるモヤシの姿に、^⑥無駄はない。「茎が長いのは、太陽は上にある」と信じて、光を求めてどんどん伸びるからである。土を押しつけやすいように背中を丸めている。^⑦土の上に出て、太陽の光を浴びるまで、葉は広げないし、緑の色素もつくらない」と考えると、その奇妙な姿の特徴が、わかりやすく美しいものに見えてくる。

（『ふしぎの植物学』 田中 修）

問一 傍線部A～Eのカタカナ部を漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

A シキ別

- ア もうすぐ入学シキだ。
イ 読書で知シキを得る。
ウ あでやかなシキ彩のドレスを着る。
エ シキ物の上を土足で歩く。

B ヒン弱

- ア 電化製ヒンを購入する。
イ ヒン死の小鳥を助ける。
ウ テストに出題されるヒン度が高い。
エ 病院でヒン血だと言われる。

C 背ケイ

- ア 交通ケイ路を確認する。
イ 多数のケイ察官が負傷した。
ウ 彼の意見にケイ発された。
エ 国内のケイ気がよくなった。

D カン察

- ア 客カンの的に判断しなさい。
イ 飛行機の中はカン燥している。
ウ 裁判カンの声が響く。
エ 長い間、父のカン護をした。

E 形タイ

- ア 税金をタイ納する。
イ 会議室でタイ機する。
ウ タイ性の強い細菌が発生する。
エ 出動のタイ勢が整う。

問二 に入る適当な語を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(同じ語は二度使わないこと。)

- ア たとえば イ すると ウ ところが エ だから オ なぜなら

問三 傍線部①「それらの芽生えが地表面に芽を出す前に土中から掘り出すと、暗黒で育ったモヤシとよく似ている」とありますが、土の中に埋まって発芽した種子が暗黒で育ったモヤシと異なる点を本文中の語句を用いて解答欄に合うように簡潔に答えなさい。

問四 傍線部②「そう」の指す内容を本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

問五 二重傍線部A「肥大」、B「抑制」の対義語を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A ア 萎縮 イ 増大 ウ 縮小 エ 消失
B ア 拡大 イ 膨張 ウ 発散 エ 促進

問六 に入る漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本 イ 個 ウ 輪 エ 束

問七 波線部1～4の語のうち、品詞の異なるものを一つ選び、番号で答えなさい。またその品詞名を漢字で答えなさい。

問八 傍線部③「私たちが思っている以上にすごい能力」とは何ですか。それを言い換えている部分を本文中から十七字で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部④「先端は釣り針のように曲がり」とありますが、モヤシの先端が曲がっている理由を述べている部分を本文中から二十字前後で二つ抜き出して答えなさい。

問十 傍線部⑤「生きようとする植物の必死な姿」にこめられている筆者の気持ちにふさわしい一語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たくましさ イ あつかましさ ウ 悲しさ エ けなげさ

問十一 Ⅱ に次のア～エの各文を文脈の通るように並べ替え、記号で答えなさい。

- ア 暗黒の中にある間は、黄白色のまままで十分なのだ。
イ この色素は光合成に必要な光を吸収するために必要であり、暗黒の土の中では役立たない。
ウ 葉が黄白色なのは、クロロフィルという、葉を緑に見せる色素がつくられないからである。
エ 暗黒の中で、必要のないものをつくっている余裕はない。

問十二 傍線部⑥「無駄はない」とありますが、同じような意味の言葉を本文中から漢字三字で抜き出して答えなさい。

問十三 傍線部⑦「背中を丸めている」で用いられている修辞法を漢字で答えなさい。

問十四 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア モヤシをつくるマメを土の中で育てると、茎はヒヨロヒヨロに長く伸びる。これは光が届かないからである。
- イ モヤシをつくるマメを土の中で育てると、太くてたくましい茎になる。これは土の中に栄養があるからである。
- ウ モヤシをつくるマメを土の中で育てると、太くてたくましい茎になる。これは伸びる時に土に触れて刺激を感じるからである。
- エ モヤシをつくるマメは、箱の中の暗黒と土の中の暗黒をシキ別できない。これはどちらも光が届かないからである。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

春暮れてのち夏になり、夏果てて秋の来るにはあらず。春はやがて夏の気を催し、夏よりすでに秋は通ひ、秋はすなはち寒くなり、十月は小春の天気、草も青くなり、梅もつぼみぬ。木の葉の落つるも、まづ落ちて芽ぐむにはあらず。下よりきざしつはるに堪へずして落つるなり。迎ふる気、下に設けたるゆゑに、待ち取るついで、はなはだ I 。

生老病死の移り来たること、またこれに過ぎたり。四季はなほ定まれるついであり。死期はついでをまたず。死は前よりも来たらず。かねてうしろに迫れり。人みな死あることを知りて、待つことしかも急ならざるに、おぼえずして来たる。③ 沖の干潟はるかなれども、磯より潮の満つるがごとし。

- ※ やがて…そのまま。
- ※ すなはち…そのまま。
- ※ つはる…つきあげてくる。
- ※ 待ち取るついで…待ち受けて交替する順序。
- ※ これに過ぎ…それ以上である。
- ※ しかも…そんなに。

問一 傍線部 A～D の古語を現代仮名遣いに改めなさい。

問二 傍線部①「十月」の月の異名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。またその異名の読みを現代仮名遣いで答えなさい。

- ア 水無月 イ 葉月 ウ 神無月 エ 師走

問三 I に入る適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 遠し イ 疎^{うと}し ウ をかし エ 速し

問四 傍線部②「これ」はということかを説明した次の文の空欄に入る適当な語を本文中から抜き出して答えなさい。

() の移り変わりなどの自然界の変化。

問五 傍線部③「沖の干潟はるかなれども、磯より潮の満つるがごとし」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から

一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつかは訪れるものと分かっているが、うっかり忘れてしまうということ。
イ いつかは訪れるものと分かっているが、気づけばすぐそばに迫っているということ。
ウ いつかは訪れるものと分かっているが、目をそらしたくなってしまうということ。
エ いつかは訪れるものと分かっているが、楽しみに待ってしまおうということ。

問六 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 死は突然に襲ってくるものである。

イ 冬の初めの十月は寒さが厳しく、春が訪れる気配がない。

ウ 木の葉が落ちてのちに新芽が出てくる。

エ 人は自分の死については忘れがちである。

問七 この古文は『徒然草』という随筆ですが、作者の名前を漢字で答えなさい。また、日本三大随筆と言われる作品を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 宇治拾遺物語

イ 奥の細道

ウ 方丈記

エ 源氏物語

オ 枕草子

【二】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「日本語の乱れ」とは、お手本とされる日本語と現実の日本語の食い違いを否定的にとらえたものです。その食い違いは現実の日本語が変化することでも、お手本が変化することでも生じます。それは流行語のようになくなることもあれば定着することもあり、はつきりとした結論が用意されるまでは「誤用」などとして取り上げられます。

①「ら抜き言葉」がその良い例でしょう。現在は「食べられる」を「食べれる」と表現することは間違いだ、とされています。しかし会話の中では何の違和感もなく使われています。このような「誤用」がしだいに「正用」になっていくならば、あながち「乱れ」とは言い難いでしょう。

また若い世代の人たちは敬語を誤った形で、つまり若者流に使ってしまうことがあります。元々日本語における敬語は三種類に分かれ、その使い分けは誰に対しての敬意かということとでなされます。しかしそのことを意識していない場合も多く、混同してしまっているのです。

混同すると言えば、ことわざも同様のことが起こっています。③「情けは人の為ならず」はその良い例です。日常生活の中で「誤用」も多いのではないのでしょうか。辞書によつては、「誤用」についても載せているものもあります。また「枯れ木も山の賑わい」は本来ほめ言葉ではありません。これも「誤用」してしまうと、自分の信用にかかわるので注意が必要です。さらにパソコンやスマートフォンを使って文章を書くことが多くなり、漢字の変換ミスが多くなっています。例えば「一朝一席」⑤としてしまう可能性は大いにあるでしょう。これは笑って済ませられる場合もあれば、場所が場所なら大変なことになってしまいます。ここは落ち着いて自分の作った文章を振り返ることが必要になります。

このように「日本語の乱れ」は世の中の状況によつては「誤用」のまま消えていくものもあれば、「正用」となって「進化」したと考えられていくものもあります。まさに、「言葉は生き物である」ともいえるのではないのでしょうか。

問一 傍線部①「ら抜き言葉」とありますが、「ら抜き言葉」になっているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 明日は一緒に遊びに行けると思う。
- イ 思ったよりも走れることが分かった。
- ウ ここから一階まで降りれますか。
- エ 夕食をうまく作れてよかった。
- オ この道はまだ通れるはずだ。

問二 傍線部②「日本語における敬語は三種類」とありますが、次のA～Eの傍線部の語は、(ア)尊敬語、(イ)謙讓語、(ウ)丁寧語のどの種類にあたりますか。(ア)～(ウ)の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- A どうぞ温かいうちに召し上がって下さい。
- B これが有名な通天閣です。
- C 一休みしてから行きます。
- D お目にかかることができて光栄です。
- E 親戚のおばさんから時計をいただく。

問三 傍線部③「情けは人の為ならず」、④「枯れ木も山の賑わい」、およびA～Eのことわざ、故事成語などの正しい意味を後の

A～サの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

③ 情けは人の為ならず

④ 枯れ木も山の賑わい

A 気が置けない

B 濡れ手で粟

C 犬も歩けば棒に当たる

D 馬子にも衣裳

E 他山の石

A 外形を立派にすると誰でも引き立つこと。

I 苦労せずに利益を得ること。

ウ 緊張したり遠慮する必要がなく、うちとけられること。

エ 何か行えば時には災いにあうこと。

オ 自分に直接関係のないつまらないことでも、自分の知徳をみがく助けになること。

カ 油断ができないこと。

キ むやみに情けをかけるのは甘やかすので、結局その人のためにならないこと。

ク 他人のものは何でも良く見えること。

ケ つまらないものでも無いよりあった方がましなこと。

コ 人に情けをかけておけば、いつかは自分にもよいことがめぐってくること。

サ 人が集まればにぎやかになること。

問四 傍線部⑤「一朝一席」、およびA～Dの四字熟語の傍線部の文字を正しく書き改めなさい。またこれらの四字熟語の正しい意味を後のア～オの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ⑤ 一朝一席 A 暴若無人 B 臨期応変 C 大同小違 D 一騎当選

ア 非常に強いこと。

イ 状況によって、その対応を変えること。

ウ わずかの時日。

エ 人まえをはばかり勝手気ままにふるまうこと。

オ 全体的にはほとんど同じで、細かい点だけ違うこと。